

# 世田谷区長に保坂展人氏

## 都政新報

発行所 都政新報社

〒160-0023 東京都新宿区  
西新宿7-23-1 T Sビル

(総務・読者) 03-5330-8781

(企画広告) 03-5330-8784

(編集) 03-5330-8786

(制作) 03-5330-8786

(出版) 03-5330-8788

(ファクス) 03-5330-8808

購読料 月1,680円(税込)

毎週火・金曜日発行

ただし、祝日は休刊

©都政新報社 2011

### 号外

### 詳しくは26日付の都政新報で

## 小金井、国立、東大和で現職落選



当選を決め、夫人と喜びを分かち合う保坂氏=24日午後11時54分、世田谷区北沢の事務所

統一地方選後半戦は、24日に投票が行われた。首長選は、前半戦の都知事選とは対照的に、波乱含みの結果となった。

世田谷区長選は新顔5人の争いとなり、世論調査では前民主党都議の花輪智史氏(44) || 自民推薦 || のリードが伝えられていたが、元衆院議員の保坂展人氏(55) || 社民党、国民新党、ネット、新党日本支持 || が競り勝って初当選した。「脱原発」の訴えが予想外に多くの共感を

得た。出馬表明から18日間の短期戦で勝利した。「時間もなし、組織もなし。夢のような選挙戦」と保坂氏。当選を決め、「大きな時代の変わり目の中で、何とか脱出口を求めたいという空気を世田谷区民がしっかり嗅ぎとってくれた。まず、地域で一人ひとりの住民参加、まちづくりを作り直したい。地域のことはみんなで決める、機能強化することが震災に強い地域になる」と語った。一方、花輪氏は「申し訳ない。私の力不足という以外にない」と敗戦の弁。

台東区長選でも、元参院議員の保坂三蔵氏(71) || 自民党推薦 || が組織戦で勝ると思われていたが、現職

の吉住弘氏(69)が3選を果たした。自民党台東総支部の予備選では、保坂氏に軍配が上がったが、本番の区長選では吉住氏が雪辱を果たした。吉住氏にとって3期目は集大成。「4年間で自分なりのものを完成したい」と決意を語った。一方、敗れた保坂氏は「責任を感じている。出処進退をできるだけ早く明らかにしたい」と話した。

多摩地域では、小金井、国立、東大和の3市で現職が落選した。ごみ問題で揺れる小金井市長選は、元朝日新聞記者の佐藤和雄氏(53)が稲葉孝彦氏の4選を阻止した。市議会との関係、近隣市との関係など難しいかじ取りで手腕を問われることになる。

国立市の関口博氏は、共産党が独自候補を擁立したのが響き、再選を果たせなかった。元市部長の佐藤一夫氏(63) || 自民党、公明党、みんなの党推薦 || は、当選後の会見で「市民の良識に本当に感謝したい。法を守る普通の人間が勝利を得た、単純な話だ」と語り、就任後すぐに住基ネットに接続する準備に入ることを明らかにした。

東大和市では、前回、200票差で敗れた尾崎保夫氏(61)が2度目の挑戦で、5期目をめざす尾又正則氏に勝った。

大島町長選は、現職の引退に伴い、7人の新人が立候補。共産党町議を4期務めた川島理史氏(58)が乱戦を制した。